

第6章 言語・教育

語学をやる以上、「言語」自体がテーマになるのは必然的であろう。読者の皆さんは英語を少しでもマスターするために本書を手にしたのだから、言語に対する興味は人一倍強いのかもしれない。それにしても、相変わらず覚めることのない日本人の英会話ブームとそれに反比例した日本人の英語力の低さは何を意味するのだろうか。英語教育の問題点ということになろうか。そこからテーマは「教育」へと移っていく。第1部で学んだような通り一遍のことが身に付かないのも問題だが、型通りのことしかできないというのも問題だ。誠に教育というのは難しい。教えすぎて自主性を削いでもいけないし、放任しすぎて相手を怠け者にしてもいけない。

本章の「言語」と「教育」の問題を扱いながら、各自の現在の学習の是非も改めて確認してみたいだろうか。

【表現力チェック】

- 51. 「英語ほど広く使われている言語はない」という文の構文は？
- 52. 「言葉が通じないほど辛いことはない」という文も、ただ機械的に最上級等の表現にしてよいのだろうか？
- 53. 「英会話」を **English conversation** と思っていないか？ 「国際人」は英語でどう表現するか？ そもそも「国際人」とはどういう意味か？
- 54. 「英語を勉強し始めてから6年になる」という文の構文は？
- 55. 「マスターする」は **master** でよいか？ **learn** を単に「学ぶ」と覚えていないか？ **study** とはどう違うのか？
- 56. 「母国語を身につける」は英語でどう表現するのか？
- 57. 「話の中身」を英語でどう表現するか？
- 58. 「カンニング」は英語で **cunning** か？
- 59. 「遊び」は英語で **play** か？
- 60. 「自分で考える」の「自分で」は **for oneself** か **by oneself** か？